

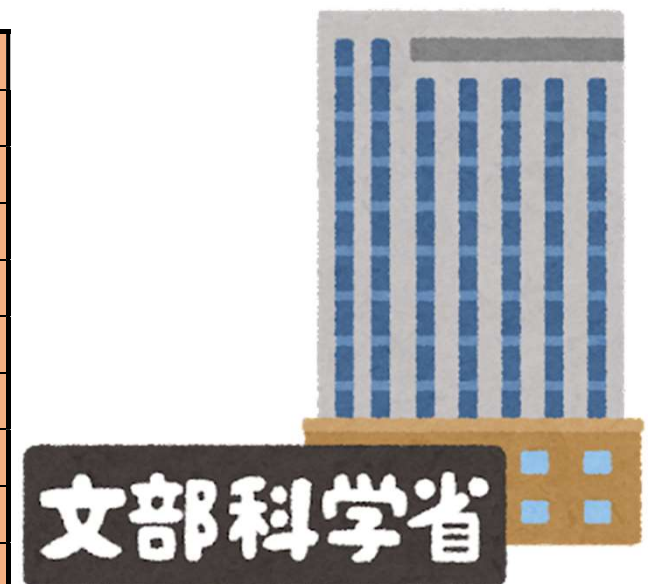
1. 技術士制度について

(1) 概要

- 文部科学省は、科学技術に関する高度な専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験などの業務を行う者に対し「技術士」の資格を付与し、その業務の適正化を図る「技術士制度」を設けています。
- 技術士となるためには、機械、建設などの技術部門（21部門）ごとに行われる国家試験に合格し、登録を行うことが必要です。技術士試験は、理工系大学卒業程度の専門的学識等を確認する第一次試験と、技術士になるのにふさわしい高等の専門的応用能力を確認する第二次試験で構成されております。

技術部門一覧

1	機械部門	11	衛生工学部門
2	船舶・海洋部門	12	農業部門
3	航空・宇宙部門	13	森林部門
4	電気電子部門	14	水産部門
5	化学部門	15	経営工学部門
6	繊維部門	16	情報工学部門
7	金属部門	17	応用理学部門
8	資源工学部門	18	生物工学部門
9	建設部門	19	環境部門
10	上下水道部門	20	原子力・放射線部門
		21	総合技術監理部門



1. 技術士制度について

(2) 技術士資格

土木業界は様々な資格があり、資格が有ると無いでは評価に大きな差が出る場合があります。以下に業種毎の有用な資格を示します。

資格名	概要	有効な業種			
		建設会社	コンサル	メーカー	公務員
技術士	技術者にとって最高峰の資格。難易度も高い。 コンサルでは管理技術者の要件。	○	◎	○	○
RCCM	建設コンサルでは技術士に準ずる資格。 取得しやすいが、評価は一段階低い。	-	○	-	-
土木施工管理技士	施工の現場管理人や監理技術者の要件。 建設会社では特に重要視される資格。	◎	△	△	△
労働安全コンサルタント	土木工事の現場で、安全に施工を進めるためのスペシャリストという資格。	○	-	-	-
測量士	測量の現場管理に必須。 測量関係の会社では特に重要視される資格。	○	△	-	-
地質調査技士	地質調査の現場管理に必須。 地質関係の会社では特に重要視される資格。	○	△	-	-
コンクリート技士	コンクリート構造物の施工で必要。	○	-	-	△
コンクリート診断士	既設コンクリート構造物の点検、強度評価、劣化原因の究明、補修提案などで必要。	△	○	-	△
点検士 (道路橋・河川)	既設構造物(橋梁や河川構造物)にて、点検、強度評価、劣化原因の究明、補修提案で必要。	△	○	-	△

1. 技術士制度について

(3) 技術士資格取得のメリット

1. 日本における技術者の最高位の国家資格で，高い職業能力が証明される（一流技術者として認めてもらえる）。
2. 海外でも有効な資格
⇒APECエンジニアなどの国際資格に登録可能。
3. **仕事するうえで有利な資格**
⇒技術士資格が必須要件の業務，公的資格取得上の特典
4. 継続研鑽による技術力の維持・向上
5. **処遇，人脈，就職・転職に有利**



技術士資格の取得は，「これからの人生を歩んでいく上で大いにプラスになるもの」といえます。

1. 技術士制度について

(4) 技術士資格の公的活用(主な活用例)

技術士は、中央省庁や地方自治体で公的活用が出来ます。

経済産業省

- ・ダム水路主任技術者選任許可要件
- ・中小企業・ベンチャー総合支援
事業派遣専門家登録される専門家

国土交通省

- ・設計監理者（鉄道土木、鉄道電気他）
- ・宅地造成工事の技術的規準の設計者
- ・一般建設業の営業所専任技術者等
- ・特定建設業の営業所専任技術者等
- ・建設コンサルタントとして国土交通省に
部門登録をする場合の専任管理技術者
- ・地質調査事業者として国土交通省に
登録する場合の技術管理者
- ・開発許可申請の場合の設計者

厚生労働省

- ・水道の布設工事監督者
- ・労働災害防止のための建設工事などの
計画に参画させる有資格者
- ・労働契約期間の特例

環境省

- ・汚染土壌処理業許可の基準における
汚染土壌処理施設に配置すべきとされる
汚染土壌処理施設の維持管理及び
汚染土壌土壌の処理を的確に行うに足りる
知識及び技能を有する者

1. 技術士制度について

(5) 主な公的資格取得上の免除等

技術士は、国家認定された高度な技術者として、各種資格試験等で資格試験の一部又は全部を免除されています。

経済産業省

- 中小企業診断士（情報工学）
- 弁理士（筆記試験一部免除）
- ホイール・タービン主任技術者

国土交通省

- 土地区画整理士
- 土木施工管理技士（1級・2級）
- 電気工事施工管理技士（1級・2級）
- 管工事施工管理技士（1級・2級）
- 造園施工管理技士（1級・2級）

厚生労働省

- 建築物管理衛生管理技術者
- 労働安全コンサルタント
- 労働衛生コンサルタント
- 作業環境測定士（第1種・第2種）

環境省

- 特定工場における公害防止管理者
- 環境カウンセラー

総務省

- 消防設備士（甲種・乙種）
- 消防設備点検資格者（特種・第1種・第2種）

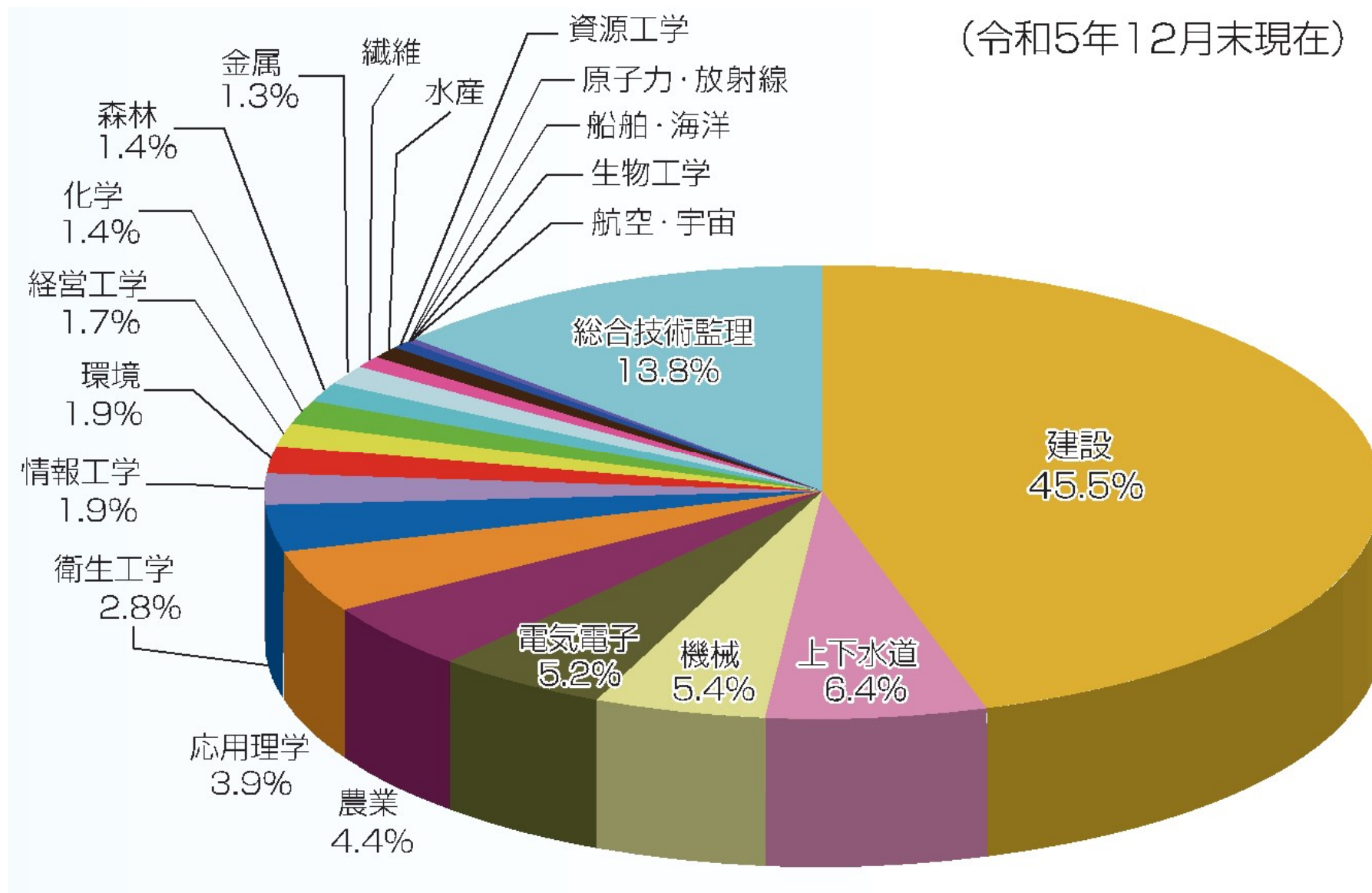
1. 技術士制度について

(6) 技術士の活動分野

活動分野	想定される役割
企業内技術士として	技術業務のリーダー 技術監理
公務員技術士として	行政業務 関係機関との協議 地域住民との折衝
教育・研究者として	大学等の高等教育機関 公的な研究機関
知的財産評価者として	弁護士、弁護士等とパートナーを組んで技術的評価の役割を担う
中小企業への協力支援	技術指導 技術調査 技術開発 技術評価
海外活動として	公的海外関係機関への専門家派遣 JICA JETRO JBIC 外国政府自治体への専門家派遣 世界銀行 アジア開発銀行
コンサルティング業務	企画、調査、計画、設計、監理、工業事業のコンサルタント業務・ 工事監理、工事に伴う技術調査・評価 中小企業施設（専門家派遣等）、裁判所・損保機関等の技術調査・ 鑑定、工事監査・技術関係試験、技術審査・評価 技術的研究・調査、新技術の実用化のための研究開発支援 ※公共事業のプロポーザルでは、技術士資格が評価ポイントになる。
その他	企業経営 NGO/NPO

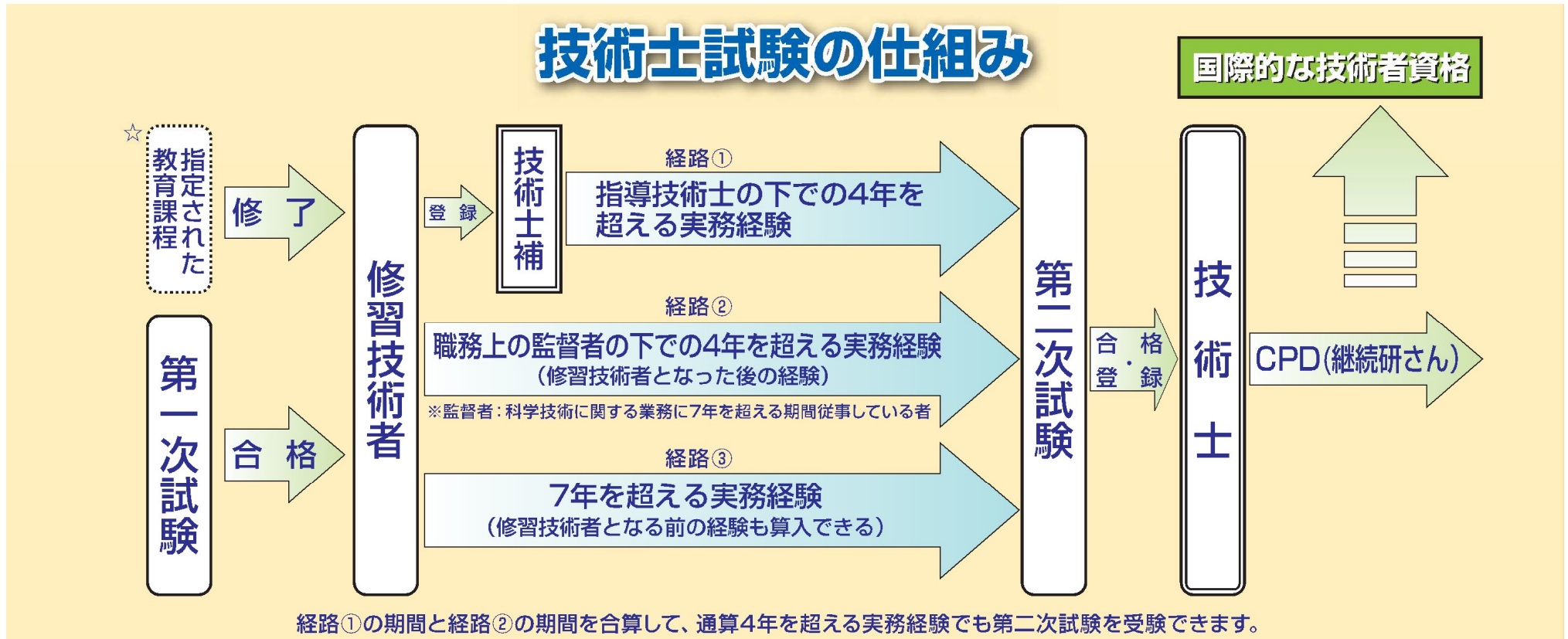
1. 技術士制度について

(7) 技術士の部門別分布



2. 技術士試験の仕組みと現状

(1) 技術士試験の仕組み



- * J A B E E (日本技術者教育認定機構) 学科の修了した学生は一次試験免除となる。
- * 経路①～③のいずれも大学院(理科系等限る)修士課程、専門職学位課程の修了者及び博士課程に在学した期間は2年を限度として当該期間から減じた期間となる。
- * 詳細は(公社)日本技術士会ホームページ(<https://www.engineer.or.jp/>)

2. 技術士試験の仕組みと現状

(2) 技術士第一次試験の受験手続

1.受験資格	年齢、学歴、業務経歴等による制限はない。
2.試験の方法	試験は、筆記試験により行う（マークシート方式）。
3.試験科目	試験は、総合技術監理部門を除く 20 の技術部門について行う。 (1) 基礎科目：科学技術全般にわたる基礎知識。 (2) 適性科目：技術士法第 4 章(技術士等の義務)の規定の遵守に関する適性。 (3) 専門科目：受験者があらかじめ選択する 1 技術部門に係る基礎知識及び専門知識。
4.試験の日時	期日 令和 7 年 11 月 23 日(日) 時間 試験時間は、受験者に別途通知する。
5.試験地	北海道、宮城県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県及び沖縄県。 ※試験会場、受験者が選択する試験地の会場を本人宛てに別途通知する。
6.受験申込書等 配布期間	令和 7 年 6 月 9 日(月)～6 月 26 日(木)
7.受験申込 受付期間	(1) 郵送受付 令和 7 年 6 月 11 日(水)～6 月 26 日(木)まで。 受験申込書類は公益社団法人日本技術士会宛てに書留郵便で提出。 (2) WEB 受付 令和 7 年 6 月 11 日(水) 9:00～6 月 25 日(水) 17:00 まで。
8.受験手数料	11,000 円
9.指定試験機関	公益社団法人日本技術士会 〒105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号 機械振興会館 4 階 電話番号 03-6432-4585
10.合格発表	令和 8 年 2 月 合格者氏名を官報で公告し、本人宛てに合格証を送付する。

2. 技術士試験の仕組みと現状

(3) 第一次試験の内容と合格判定

基礎・適正・専門の3分野があります。それぞれ正答率50%で合格となります（2つの分野が100点でも、残り1つが49点では不合格）。なので、全分野でバランス良く点数を取る必要があります。

基礎科目	問題の種類	科学技術全般にわたる基礎知識を問う問題 1. 設計・計画に関するもの 2. 情報・倫理に関するもの 3. 解析に関するもの 4. 材料・化学・バイオに関するもの 5. 環境・エネルギー・技術に関するもの
	試験方法	上記5分野各6問 計30問出題、 上記5分野各3問 計15問選択解答
	解答時間	1時間
適性科目	問題の種類	技術士法第四章（技術士等の義務）の規定の遵守に関する適性を問う問題
	試験方法	15問出題、全問解答
	解答時間	1時間
専門科目	問題の種類	20の技術分野のうち、あらかじめ選択する1技術部門に係る基礎知識及び専門知識を問う問題
	試験方法	35問出題、25問選択解答
	解答時間	2時間



→正答率50%が必要

→正答率50%が必要

→正答率50%が必要

[引用：「技術士試験 受験のすすめ」－国家試験・資格への案内－，公益社団法人日本技術士会，令和5年3月]

2. 技術士試験の仕組みと現状

(4) 技術士第一次試験の合格者の推移

受験者に対する合格率は、年度により多少変化しますが、平均では40%弱となっています。

年度	技術士第一次試験（昭和59年度～令和5年度）				
	受験 申込者数 (名)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	対申込者 合格率 (%)	対受験者 合格率 (%)
昭和59～令和元	687,409	524,734	204,000	29.7	38.9
令和2	19,008	14,594	6,380	33.6	43.7
令和3	22,753	16,977	5,313	23.4	31.3
令和4	23,476	17,225	7,264	30.9	42.2
令和5	22,717	16,631	6,601	29.1	39.7
合 計	775,363	590,161	229,558	29.6	38.9

[引用：「技術士試験 受験のすすめ」－国家試験・資格への案内－，公益社団法人日本技術士会，令和6年3月]



まずはチャレンジしてみましょう。

2. 技術士試験の仕組みと現状

(5) 第一次試験の年代別の合格率

年代別の合格率は、20代が最も高い結果であり、50%に迫ります。専門は社会人になると仕事上で学ぶことも多いですが、基礎科目は年を追う毎に記憶から薄れてしまいますので、若いうち（特に大学生）がチャンスです。

	総数	年代							平均年齢
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
受験申込者数(人)	22,717	788	10,256	4,812	3,914	2,482	424	41	33.5歳
	全体比	3.5	45.1	21.2	17.2	10.9	1.9	0.2	
受験者数(人)	16,631	656	7,777	3,372	2,751	1,744	301	30	33.1歳
	全体比	3.9	46.8	20.3	16.5	10.5	1.8	0.2	
合格者数(人)	6,601	212	3,310	1,352	1,000	602	118	7	32.4歳
	全体比	3.2	50.1	20.5	15.1	9.1	1.8	0.1	
対申込者合格率(%)	29.1	26.9	32.3	28.1	25.5	24.3	27.8	17.1	
対受験者合格率(%)	39.7	32.3	42.6	40.1	36.4	34.5	39.2	23.3	

3. おわりに

(1)まとめ

技術士は現代社会が抱える様々な技術的問題を解決する役割を担っています。

技術者の最高位資格である技術士は、所属組織に対しても、個人としても魅力ある国家資格です。

学生時代にその**有用性や有利さに気づき**、チャレンジするメリットは計り知れません。



学生の皆さんへ

まず、**技術士一次試験を受験し、合格を目指しましょう！**

(毎年、申込者の約20%が当日欠席、会場に行かなければ合格なし)